

2014年9月17日 2015年9月19日改訂

中国・ベトナムの漢文文献の中の南シナ海方面の記述について 補遺 4

嶋尾稔（慶應義塾大学言語文化研究所）

1 『瓊管志』の引用は、『〔萬曆〕瓊州志』に先立ち、16世紀初の『〔正徳〕瓊臺志』巻4:2b-3a、巻21:9aにおいてすでに見られる（『天一閣藏明代方志選刊 60-61 正徳瓊臺志（廣東省）』上海：上海古籍書店, 1982）。

2 『〔正徳〕瓊臺志』巻6:22aでは、「千里長沙・萬里石塘」を気の衰弱するところとする地脈観が示されている（「瓊之東則匝大海、千里長沙・萬里石塘、是即地所不滿之處、氣至是蓋受剋而將微矣。豈有能再胎息分擘之勢哉。」）

3. 『撫辺雑録』の記述では「黄沙渚」について「島傍燕窩無数」とあるが、パラセル諸島にアナツバメが巣をつくる絶壁があるとは思えない。Pulo-cù lao 列側に関する情報が混入した可能性が考えられる。

補足

パラセル諸島を含むベトナム沿海が18世紀から19世紀半ばまでにイギリスで刊行された文献にどのように記述されているのかを分析した論文が最近の『歴史研究』誌上に発表された[Duong 2015]。その著者は、ツバメの巣が、ホアンサ諸島とチュオンサ諸島でベトナム漁民が採集する重要な産物であることを強調している。主たる資料は、John Barrow の記述である[Barrow 1806: 318-319]。

That particular branch of the arts in which the Cochinchinese may be said to excel at the present day is naval architecture, for which, however, they are not a little indebted to the size and quality of the timber employed for that purpose. The vessels that are employed in the coasting trade, the fishing craft, and those which collect the *Trepan* and swallows' nests among the cluster of islands called the *Paracels*, are of various descriptions: many of them, like the Chinese Sampans, covered with sheds of matting, under which a whole family constantly resides; and others, resembling the common proas of the Malays, both as to their hulls and rigging. Their foreign traders are built on the same plan as the Chinese junks, the form and construction of which are certainly not to be held out as perfect models of naval architecture; yet, as they have subsisted some thousands of years unaltered, they are at least entitled to a little respect from the antiquity of the invention.

Barrow は中国に向かう途上 1793 年にベトナム中部のダナンに停泊し、5 月 24 日から 6 月 16 日まで同地に滞在した。帰国後、道中で得た情報により新しい知識も加えて 1806 年に旅行記を刊行した。上に引用した記述は、ダナンに滞在している間の見聞に基づくものである。Barrow は、同地の生業の中で造船業には見るべきところがあると評価し、様々なタイプの船があることを記している。その中で、パラセルと呼ばれる群島でナマコやツバメの巣を採集する船があることを述べている。この記述が完璧に正しいならば、パラセル諸島でツバメの巣が採集されていたということになる。しかし、パラセルにアナツバメが巣を作っていたとは容易に信じがたい。時代は下るが、1926 年にニャチャンのインドシナ海洋漁業研究所がパラセル調査を行い、1930 年にパラセルの鳥類に関する報告書を刊行している [Delacour & Jabouille 1930]。これによると、パラセル諸島にカモメ科、カツオドリ科、ゲンカンドリ科、メジロ科の鳥類が生息していることが知られるが、アナツバメについては記述がない。

Barrow がダナンの漁船や漁民について通訳を介して情報を得んとした際になんらかの混乱が生じたと考えるべきではなかろうか。ダナンの漁民がナマコやツバメの巣の採集を生業としているという情報とダナンの漁船がパラセル方面に出かけるという情報を一連の活動に関するものであると誤解してしまったととりあえず推測したい。ここで重要なことはむしろ一時滞在者にすぎない英国人がダナンの人々から地元船舶とパラセル諸島の関係についてなんらかの話を聞いているという事実であろう。ダナンの人々にとってパラセルは普通に会話に出てくる近しい土地であったことが窺われる。

Barrow の旅行記はブリカタニカ百科事典の第 7 版と第 8 版 [Napier ed. 1842; Trail ed. 1854] の COCHINCHINA の項目の記述に利用され、ダナンの漁船がパラセル諸島にツバメの巣を取りに行くという情報がほぼ原文の通りに記されている。もっともこの記述を気に留めたイギリス人はほとんどいないであろうが。

Dương Hà Hiếu. 2015. "Biên, đảo Việt Nam trong các tư liệu tiếng Anh từ thế kỷ 18 đến giữa thế kỷ 19." *NCLS* 5(2015).

Barrow, John ed. 1806. *A Voyage to Cochinchina, in the years 1792 and 1793*

London: T. Cadell and W. Davies.

Delacour, J. & Jabouille, P. 1930. *Oiseaux des Iles Paracels*. Saigon: Gouvernement general de l'Indochine.

Napier, Macvey. 1842. *The Encyclopædia Britannica, or, Dictionary of arts, sciences, and general literature*. 7th ed vol.7. Edinburgh: Adam and Charles Black,

Trail, Thomas Stewart ed. 1854. *The Encyclopædia Britannica, or, Dictionary of arts, sciences, and general literature*. 8th ed. , with extensive improvements and additions, and numerous engravings

vol.7. Edinburgh:Adam and Charles Black.